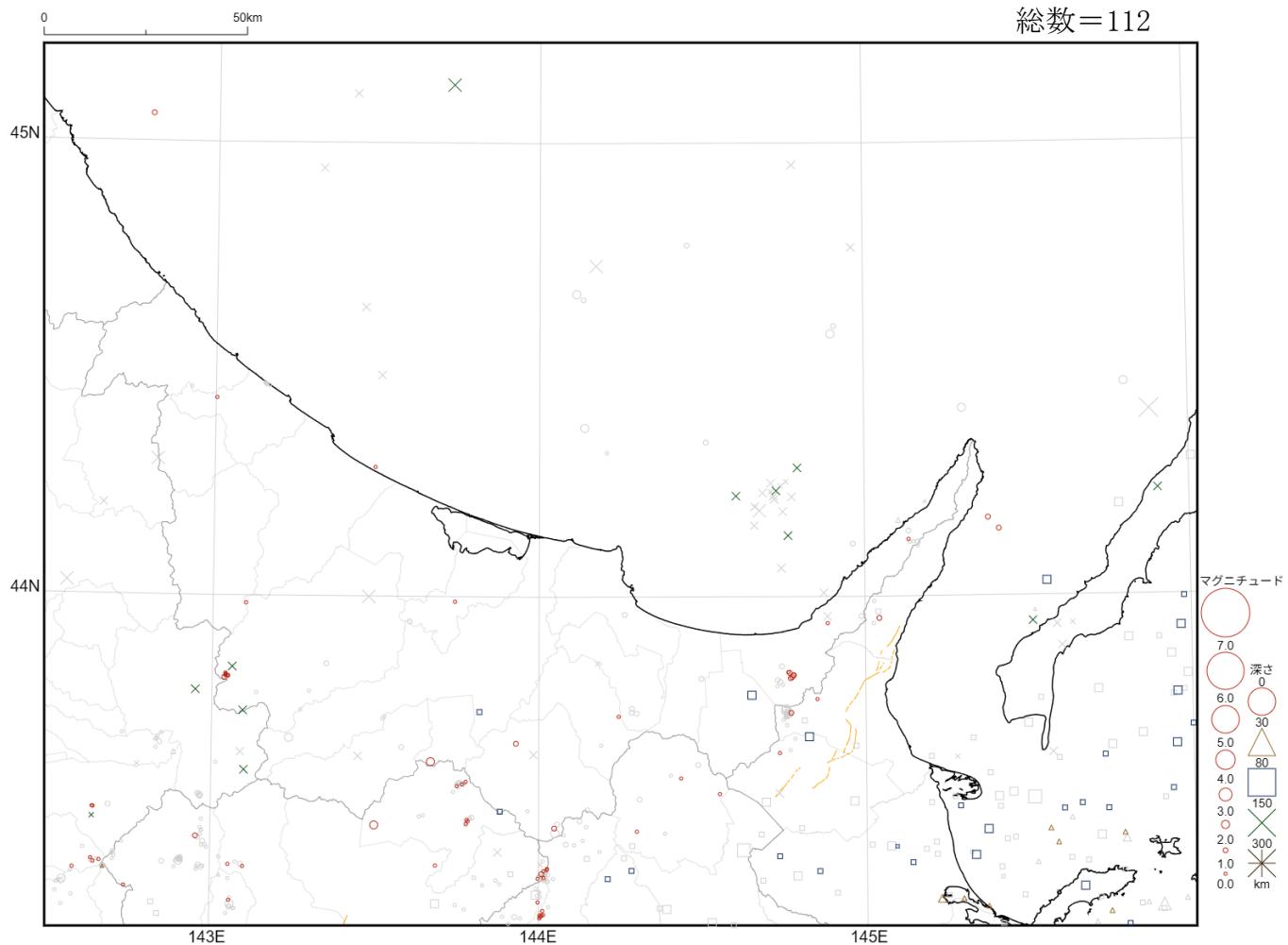


網走・北見・紋別地方の地震活動図

2026年1月

網走地方気象台

震央分布図



- 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年1月）

この期間、網走・北見・紋別地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回（12月は7回）でした（詳細は「網走・北見・紋別地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

13日01時58分、宗谷地方北部の地震（M5.2、ごく浅い、震央分布図の範囲外）により、興部町で震度2を観測しました。

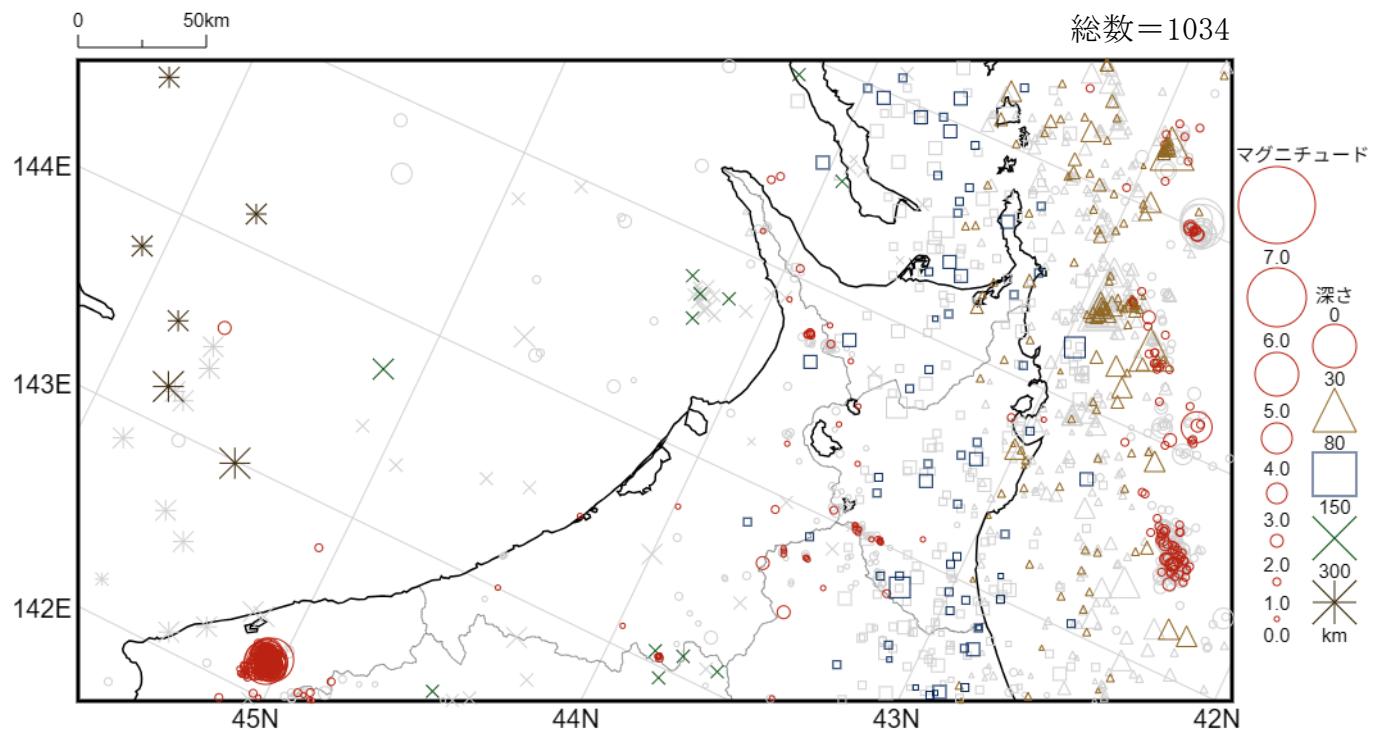
15日07時13分、釧路沖の地震（M5.6、深さ31km、震央分布図の範囲外）により、清里町で震度2を観測したほか、網走市、美幌町、斜里町、小清水町、北見市、佐呂間町で震度1を観測しました。

この活動図は、網走地方気象台のホームページに掲載しています。

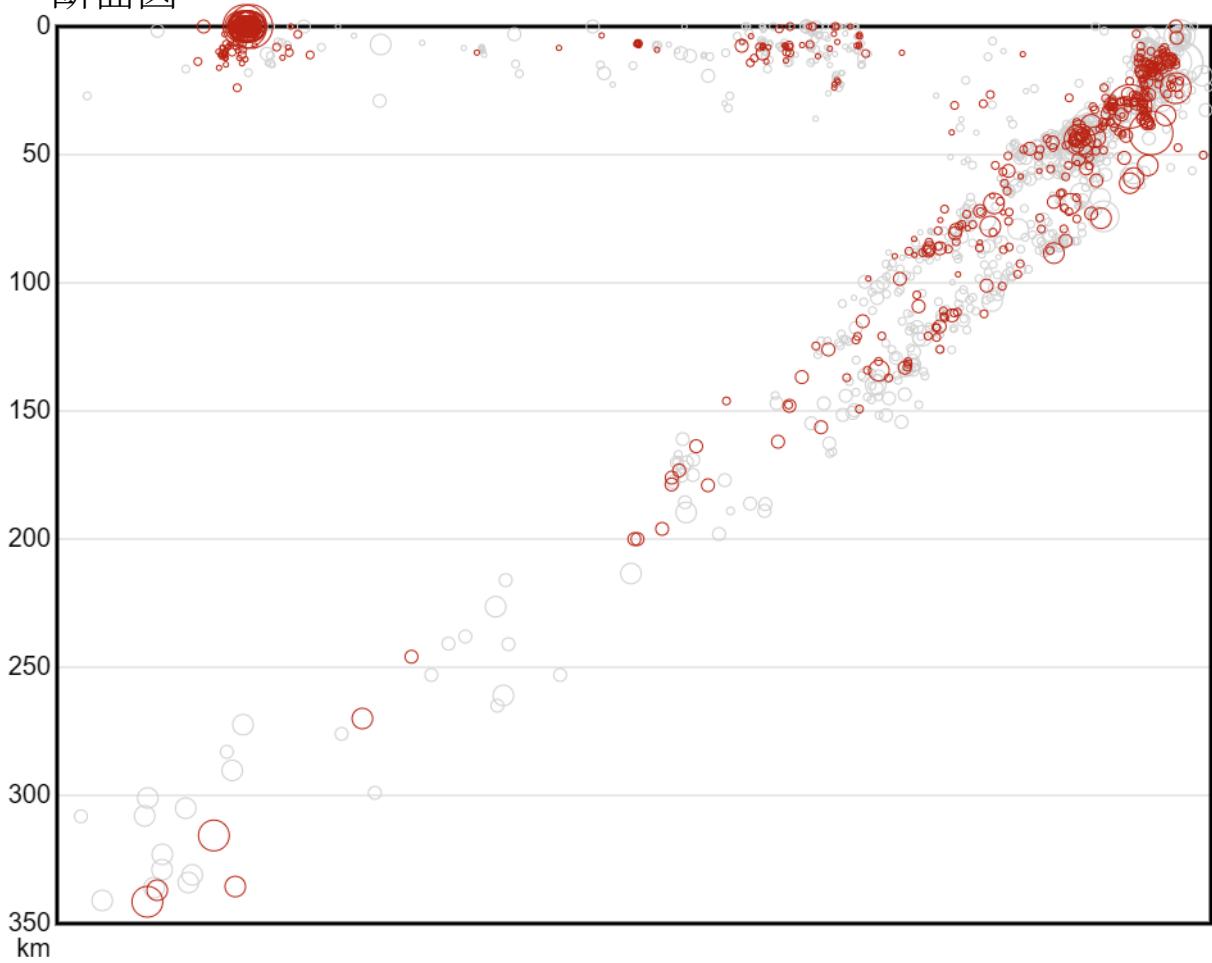
<https://www.data.jma.go.jp/abashiri/>
この資料に関する問い合わせ先 網走地方気象台 TEL 0152-43-4349

2026年1月

震央分布図



断面図

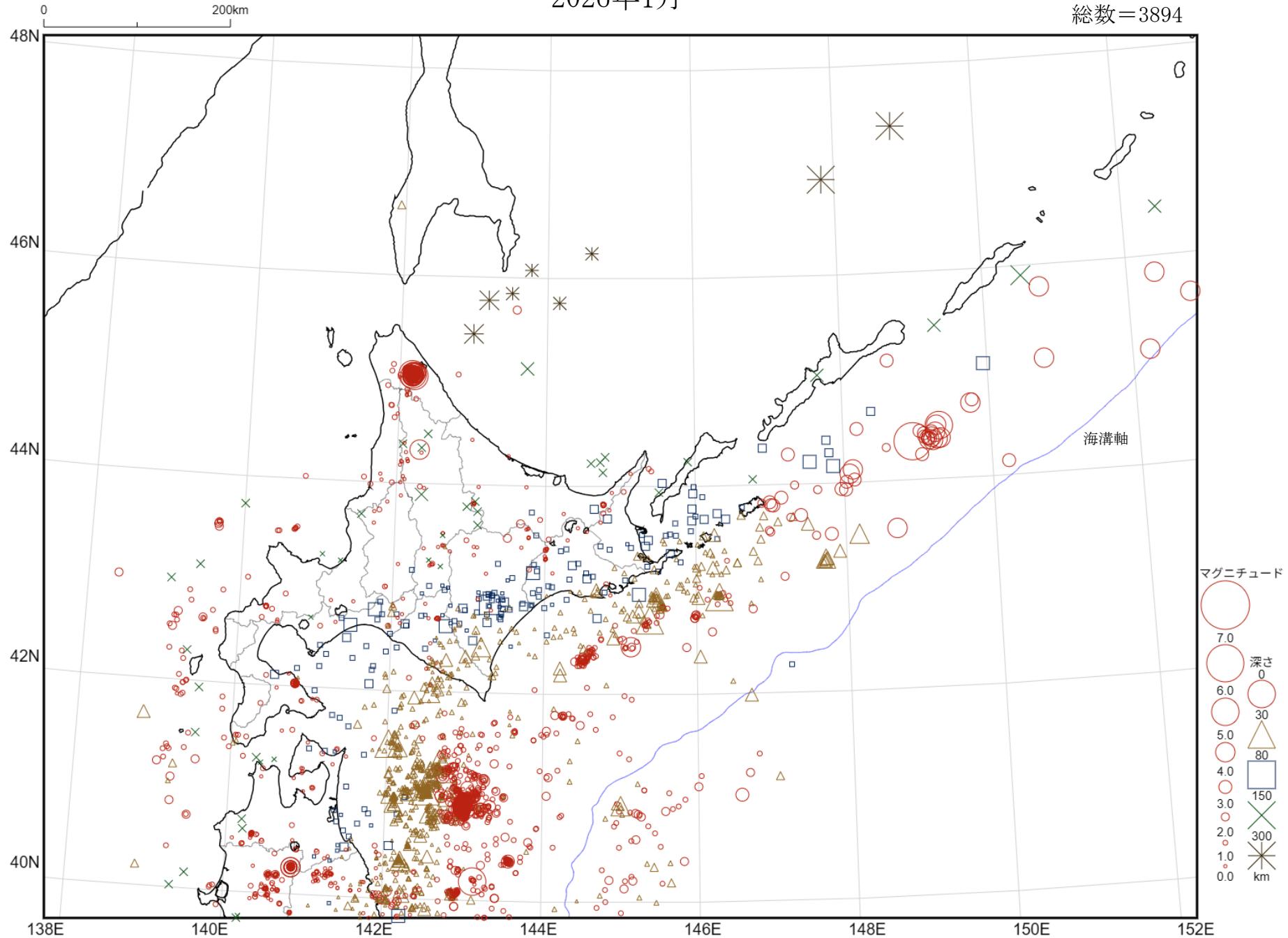


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年1月

总数=3894



網走・北見・紋別地方で震度1以上を観測した地震の表 (2026年1月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
1	2026年 1月13日	01時58分	宗谷地方北部 網走・北見・紋別地方 震度 2 興部町興部*(16)	45° 02.9' N	142° 10.0' E	0 km	M5.2
2	2026年 1月15日	07時13分	釧路沖 網走・北見・紋別地方 震度 2 清里町羽衣町*(15) 震度 1 網走市北2条*(10) 美幌町東3条(09) 斜里町本町(11) 小清水町小清水*(11) 北見市公園町(06) 北見市留辺蘂町栄町*(06) 佐呂間町永代町*(12)	42° 42.9' N	145° 23.0' E	31 km	M5.6
3	2026年 1月17日	00時39分	上川地方北部 網走・北見・紋別地方 震度 1 興部町興部*(06)	44° 19.6' N	142° 17.7' E	0 km	M4.3
4	2026年 1月27日	11時47分	根室半島南東沖 網走・北見・紋別地方 震度 1 斜里町本町(05)	42° 56.0' N	146° 18.1' E	42 km	M5.0
5	2026年 1月28日	15時34分	宗谷地方北部 網走・北見・紋別地方 震度 1 興部町興部*(06)	45° 03.7' N	142° 10.9' E	0 km	M4.8

*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

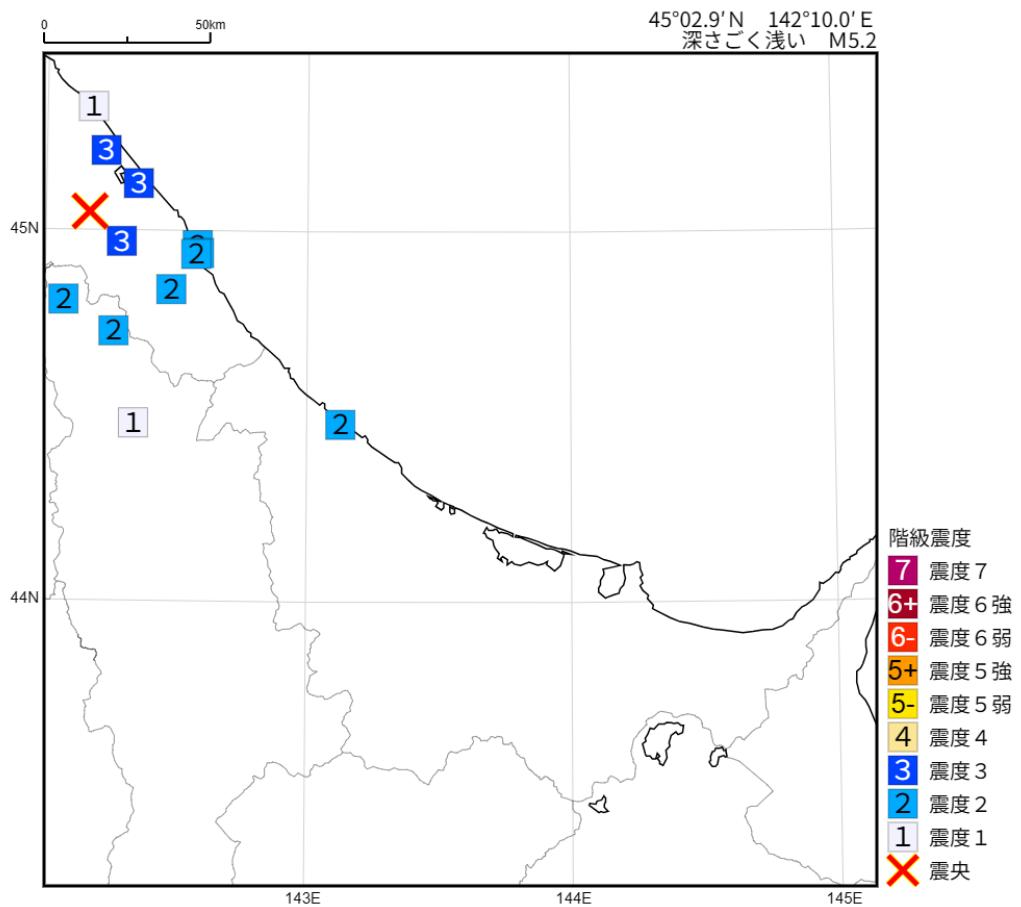
計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

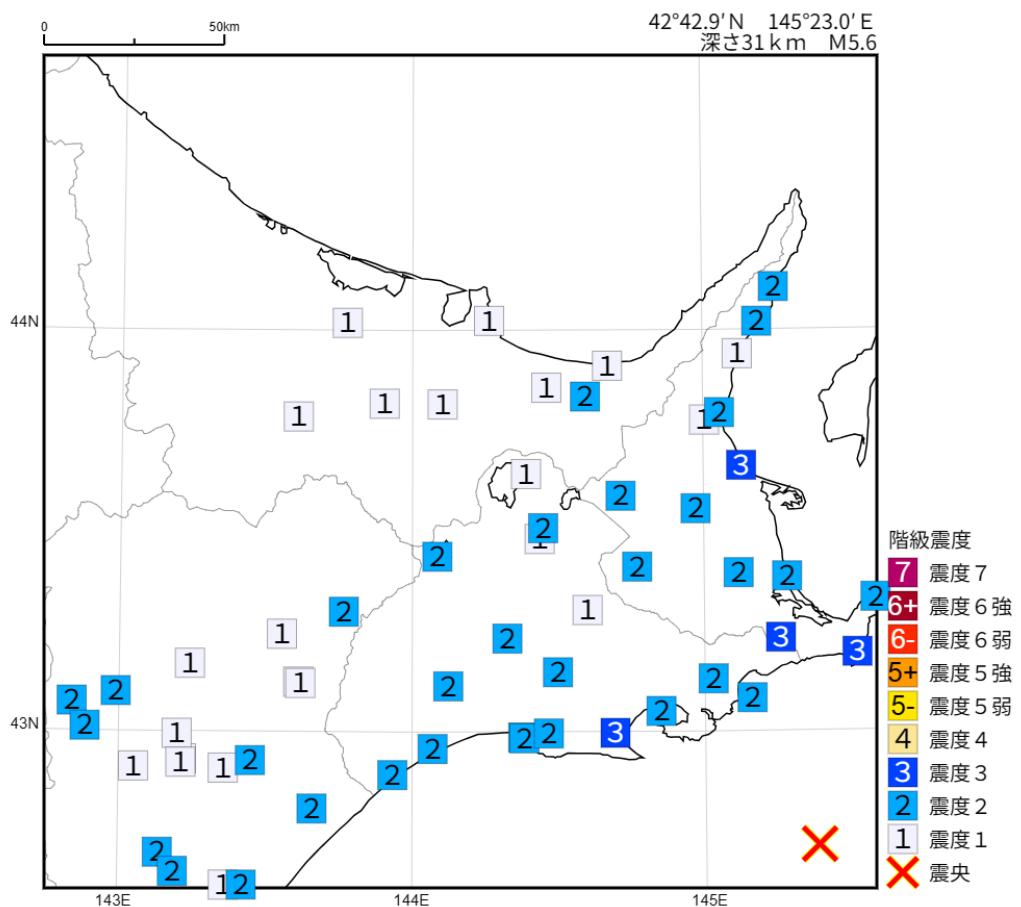
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

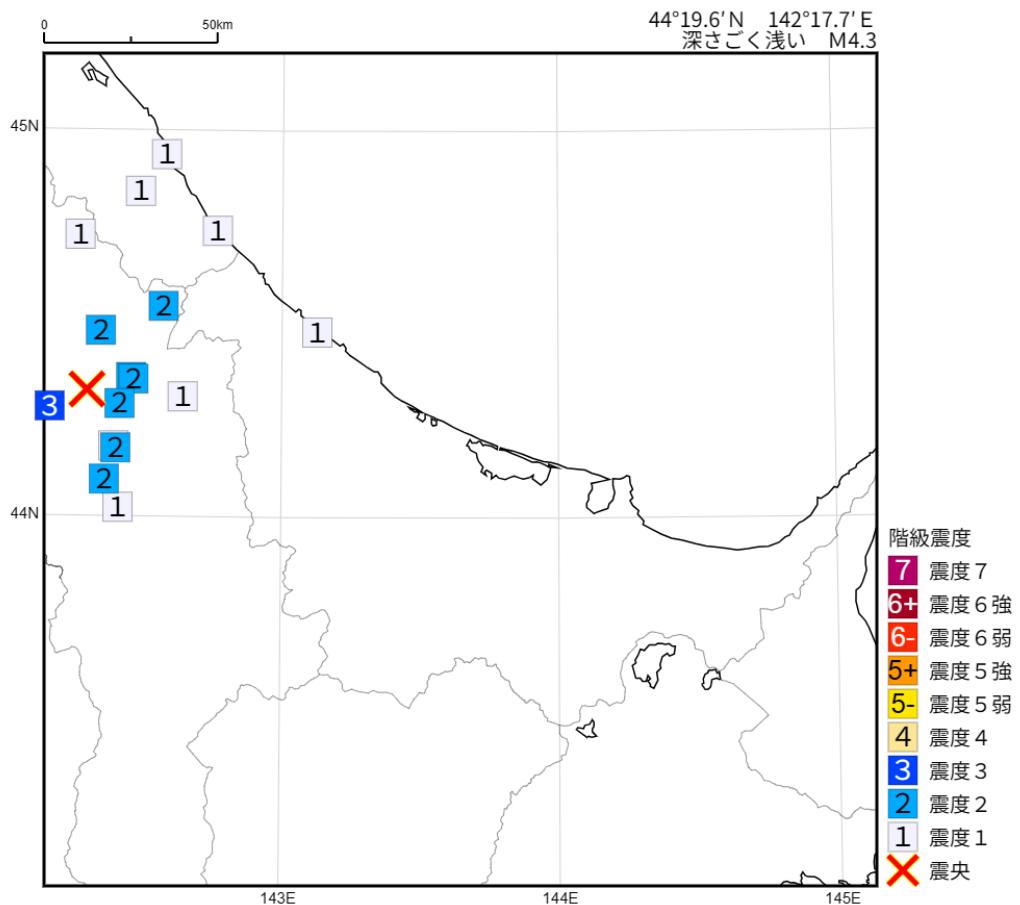
2026年1月13日 01時58分 宗谷地方北部の地震の震度分布図



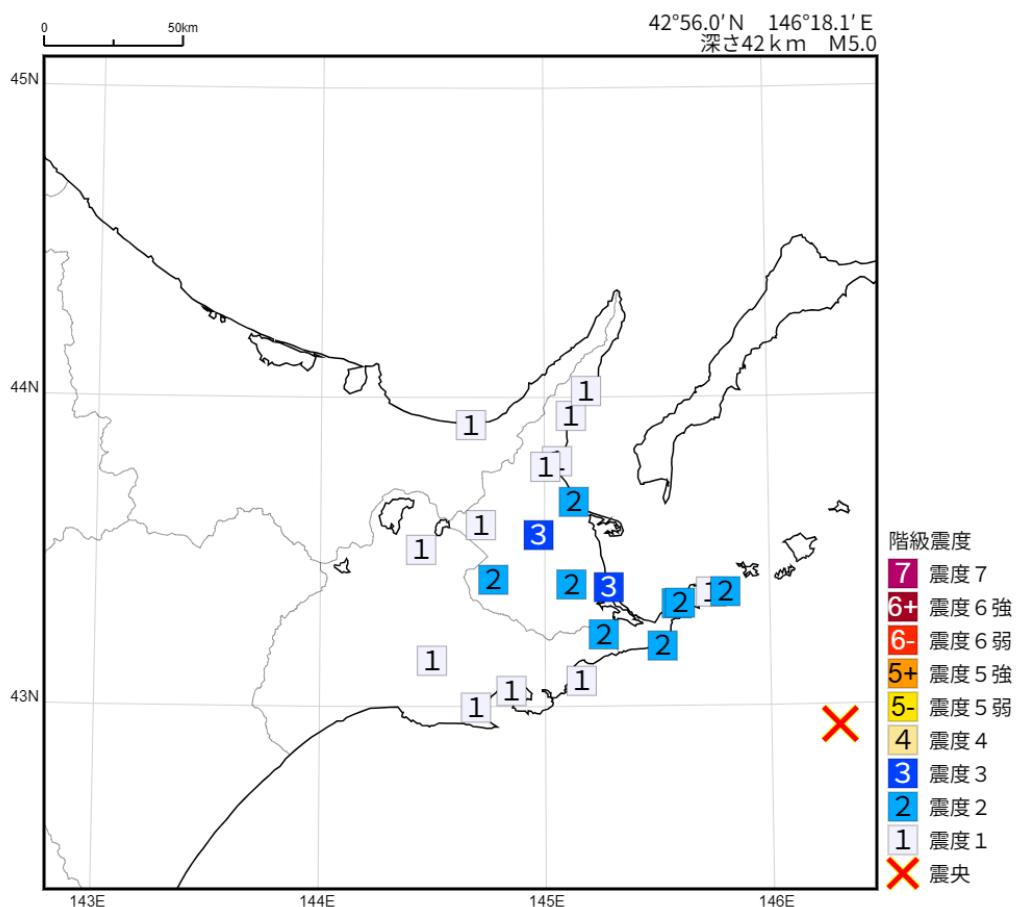
2026年1月15日 07時13分 釧路沖の地震の震度分布図



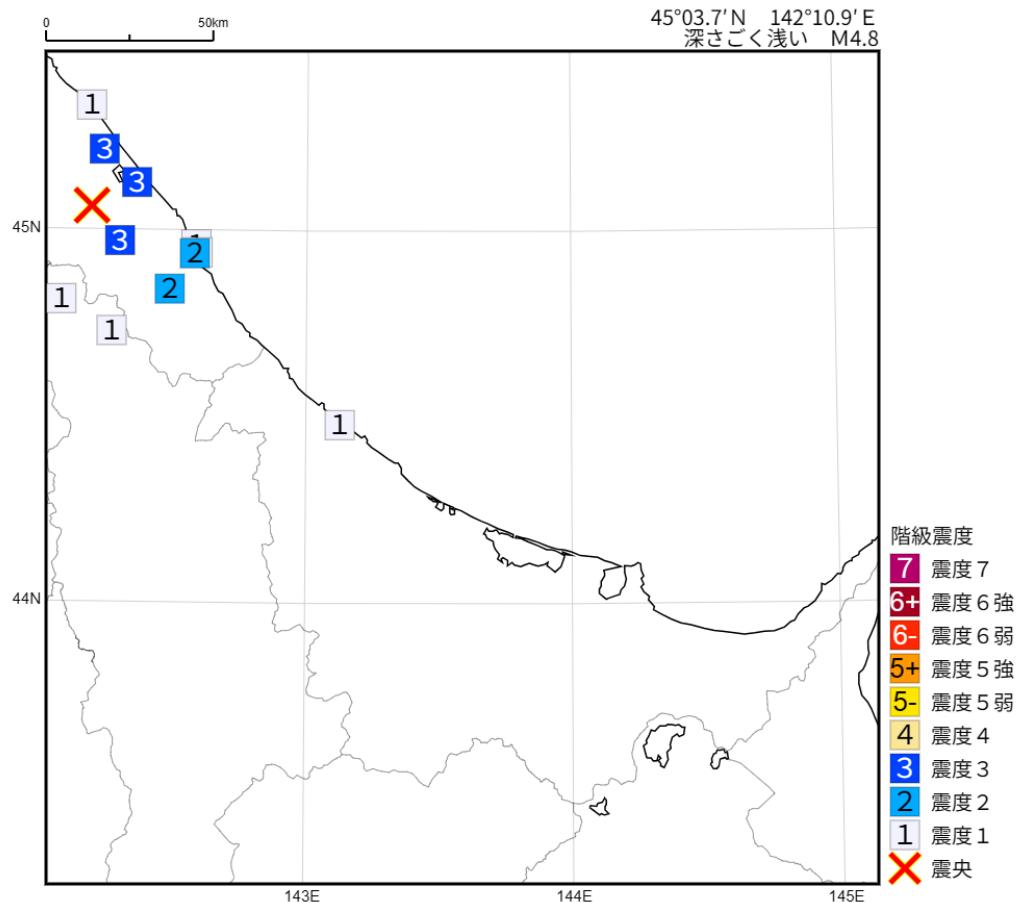
2026年1月17日 00時39分 上川地方北部の地震の震度分布図



2026年1月27日 11時47分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



2026年1月28日 15時34分 宗谷地方北部の地震の震度分布図



【防災メモ】

～異常震域～

一般に、地震の揺れは震源に近い場所ほど強く、遠い場所ほど弱くなります。しかし、震源が非常に深い地震（深発地震）の場合、震源の真上ではほとんど揺れないのに、震源から離れた場所で揺れを観測することがあります。この現象を「異常震域」と呼びます。

日本周辺では、陸のプレートの下に海洋プレートが沈み込んでいます。この海洋プレートと陸のプレートの間には地震波が減衰しやすい領域があるため、沈み込んだ海洋プレートのかなり深い場所で地震が発生すると、地震波が減衰しにくい海洋プレートを通って地震波が伝わる太平洋側で震度が大きくなることがあります（図1、図2）。

特徴的な震度分布のため「異常震域」と呼ばれます。発生した地震自体が異常というわけではありません。なお、異常震域を生じるような深発地震でも、地震の規模が大きくなれば強い揺れによる被害を生じることがあります。

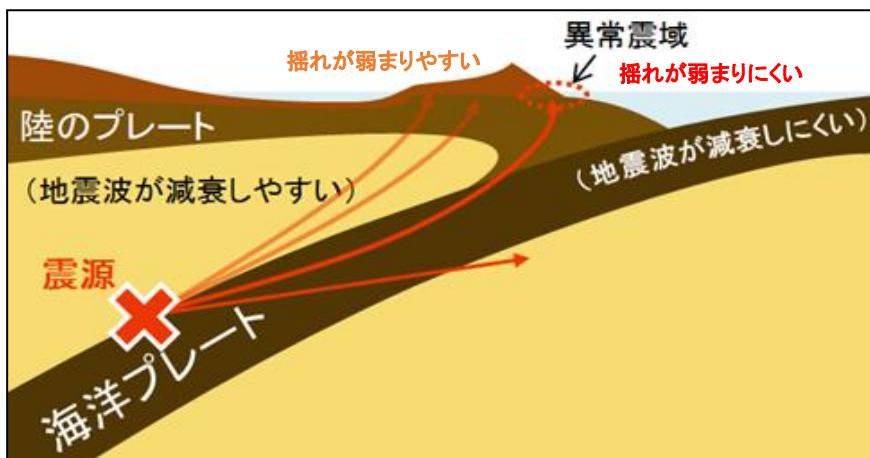
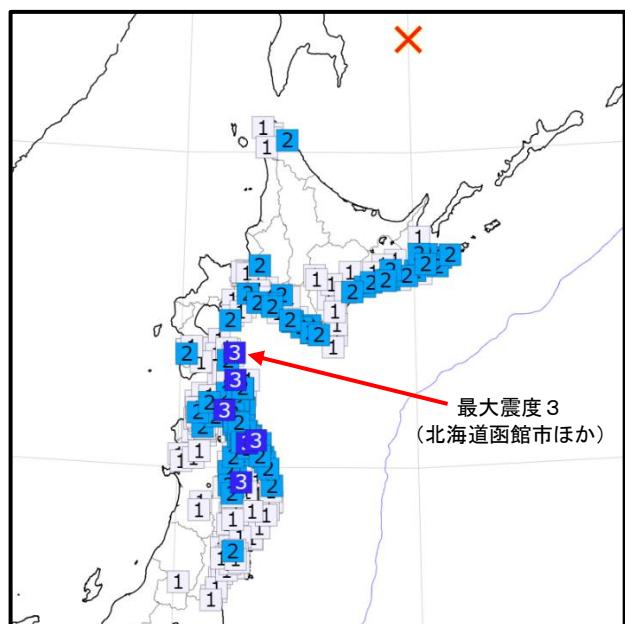


図1 異常震域模式図（断面図）



日本海北部の地震の震度分布図

（2023年6月28日 M 6.3 深さ518km）



オホーツク海南部の地震の震度分布図

（2024年8月10日 M 6.7 深さ447km）

図2 異常震域の事例（×印は震央、数字は震度を示す）